

2023/6/9

リトルハウス通信

先月の27日(土曜)、リトルハウスから生まれたレクリエーション活動の任意団体「リトルリトル」主催による毎月恒例のスポーツレクリエーションが行われました。今回も利用者、職員、ボランティアの皆さんが一体となって楽しく過ごすことができたのですが、その中で非常に嬉しい出来事がありました。それは約半年ぶりに利用者のAさんがレクに参加したことです。普段Aさんはリトルハウスに通所しても基本的にあまり作業に参加できず、静養室に一人で過ごすことが多く、他の利用者さんとの「交流」もおのずと少なくなりがちな方です。よってリトルハウスの仲間との関係性も希薄ではないかと私は思っていました。

しかし今回、レクリエーション会場に少し遅れて到着したAさんに対し、他のメンバーが非常に嬉しそうにAさんを向かい入れる様子が見られたのでした。久々に参加する緊張気味のAさんに「Aさん、一緒に審判やろう」と声をかける者やボッチャの投球をAさんに促す者等々、同じメンバー同士ならではの声掛けや適度な心遣いがあり、Aさんも自然にそれに反応し受け止めていました。

そんな中でAさんは大活躍しました。Aさんのプレーによってチームが逆転したりと大きな盛り上がりを見せ、レク参加者の投票で決まるMVPにも選出されたのでした。

今回のレクでは、Aさんがゲームの中で活躍することをレクの参加者全員が心待ちにして喜ぶような空気が広がり、Aさんもそれに呼吸するようにプレーを楽しんでいる様子でした。私はAさんが他のメンバーとほとんど「交流」がないものと勝手に決めつけていたんだと反省しました。「交流」とは、楽しく会話をすることや協働して作業する「わかりやすいもの」だけではなく、仲間たちと同じ空間にいただけでも「交流」の一形態なのでしょう。例えばAさんがリトルハウスに通所し、簡単な挨拶を交わし、メンバーと同じ昼食を食べ、調子に左右はされませんが時々作業に入り、帰りの会には必ず出席する。それだけであっても、同じ空間で顔を見合わせ続けることは、Aさんや他のメンバー(仲間)にとってお互いに「当たり前」にここに居る存在として、ちょうどよい塩梅の尊重し合う気持ちが育まれるのだと思いました。

リトルハウスは就労継続B型事業所として就労機会を提供していくことはもちろんですが、それと並行して、利用者間の仲間意識を育み、就労活動や日常生活に必要なリカバリーを促進させる基礎的な力を養える場でもありたいと思いました。(鈴木)

